

船舶インシデント調査報告書

令和5年7月5日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和4年3月10日 14時30分ごろ
発生場所	愛知県田原市伊良湖岬北方沖 伊良湖岬灯台から真方位001° 3.1海里付近 （概位 北緯34° 37.9′ 東経137° 01.0′）
インシデントの概要	プレジャーボートエクスプローラは、漂流中、船外機が始動できなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和4年3月23日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート エクスプローラ、5トン未満（長さ7.16m） 240-25149愛知、個人所有 ガソリン機関、船外機、4サイクル、出力128.70kW、回転数 毎分5,800、4気筒、ボア97mm、使用燃料ガソリン、平成2 年3月進水
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人を乗せ、釣りをしながら漂流中、釣り場を移動しようとして船外機を始動しようとしたところ、始動できなかった。</p> <p>船長は、船外機が、燃料油もあってセルモータが作動するものの、始動できなかったので運航不能と判断して118番通報し、巡視艇にえい航されて伊良湖港に到着した。</p> <p>船外機は、本インシデント後、船外機整備業者の点検で始動するが、アクセルを開かないとすぐに停止する状態であり、アクセルの開度により空気量を制御するアイドルスピードコントロールバルブ（以下「ISCバルブ」という。）が錆びて作動不良であることが判明し、ISCバルブが交換されて復旧した。</p> <p>船長は、船外機を本インシデントの約6年前に中古で購入して以来、月に約1回出航し、不具合が発生したことがなかったので、ISCバルブの点検を実施したことがなかった。</p> <p>船外機の取扱説明書では、点検項目として、アイドルリング回転数を定期的に点検すると共に船外機販売店等で運転時間200時間又は1年ごとにISCバルブの点検及び整備を行うようになっていた。</p>

分析	<p>本船は、船長が船外機を約6年前に中古で購入して以来、ISCバルブの点検が実施されていない中、漂泊中、ISCバルブが錆びて作動不良になったことから、空気が供給されず、船外機が始動できなくなり、運航不能となったものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、船長が船外機を約6年前に中古で購入して以来、ISCバルブの点検が実施されていない中、漂泊中、ISCバルブが錆びて作動不良になったため、空気が供給されず、船外機が始動できなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、定期的に、船外機販売店等でISCバルブの点検及び整備を行うこと。